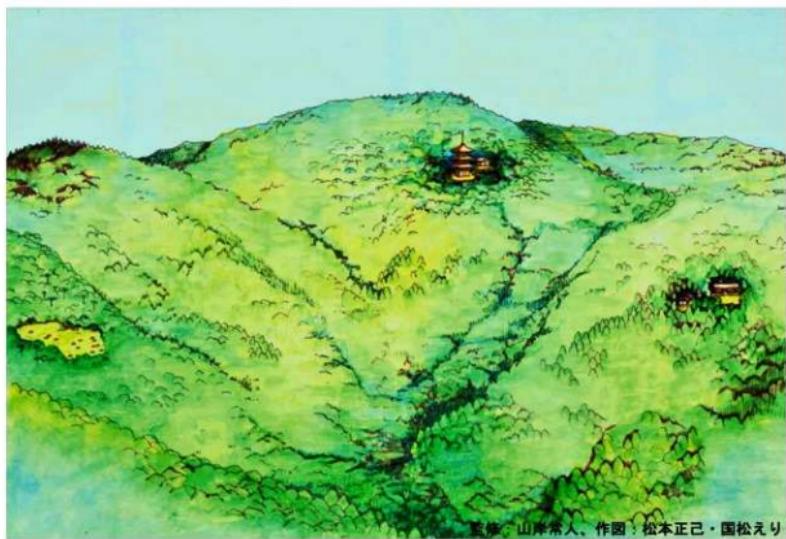


史跡

中寺廢寺跡

保存整備基本計画



監修：山岸常人、作図：松本正己・国松えり

2010年3月

まんのう町教育委員会

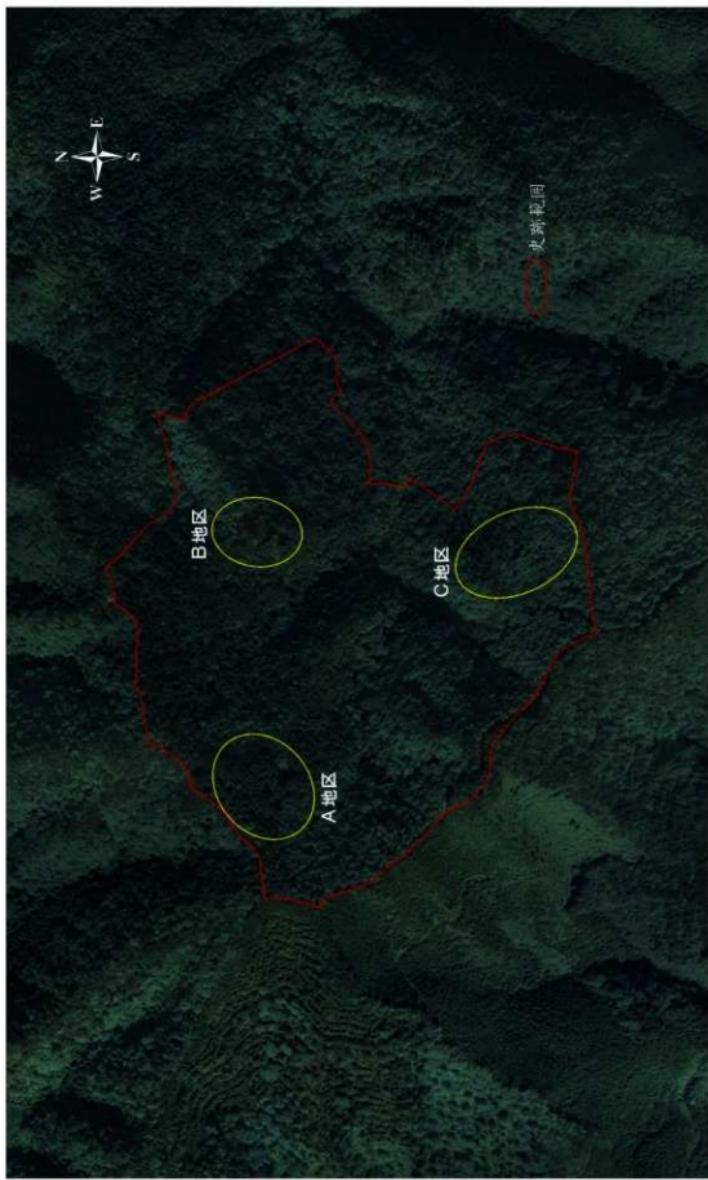


史跡中寺廃寺跡 全景（東より）



B地区第1テラスより大川山頂を望む

史跡中寺座寺跡 航空写真



あいさつ

まんのう町教育委員会では、本町の造田にある大川山（標高 1042.9m）の西尾根、標高 600～700m の辺りに広がる古代の山林寺院跡である「中寺廃寺跡」の発掘調査を行っております。

昭和 59 年の発掘調査で塔跡を確認し、塔心礎石下から鎮壇具として納められた 10 世紀前半の壺などが見つかりました。平成 16 年から平成 19 年の発掘調査で、「中寺廃寺跡」は A～C 地区の約 1 km の範囲にそれぞれ主要な建物や石組が造られていることが分かり、中心地区である A 地区では仏堂跡や塔跡が規則的に造られていることが分かりました。

これらの遺構より、8 世紀後半から 12 世紀の遺物が出土しました。

平成 20 年 3 月 28 日に、「中寺廃寺跡」は古代山林寺院として全国的に貴重な遺跡であるとして、国指定史跡となりました。

平成 21 年度は B 地区の第 3 テラスの発掘調査を継続するとともに、史跡中寺廃寺跡整備検討委員会の丹羽佑一委員長様をはじめ委員の皆様、香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課文化財専門員の森 格也様のご指導を得ながら、史跡の保存整備基本計画の策定に取り組みました。

史跡中寺廃寺跡が山岳修行の地であることから、建物等の復元、車道の開設は行わず、ここを訪れるにより、山奥深い大自然の中で往時の修行僧が身を置いた非日常的な環境を体感し、日々の生活に追われる現代人が人間本来のあるべき姿を回復することができる場となることを目的として整備することにしました。

そして、このたび、史跡中寺廃寺跡保存整備基本計画を発行する運びとなりました。本報告書が、古代山林寺院の研究の資料として広く活用されますとともに、文化財に対する理解と関心が深められることになれば幸いです。

最後になりましたが、本発掘調査及び保存整備に格別のご指導とご協力をいただきております関係の皆様方に心から深く感謝申し上げますとともに、今後ともよろしくご支援賜りますようお願い申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。

平成 22 年 3 月

まんのう町教育委員会

教育長 北山正道

例　　言

1. 本書は、香川県仲多度郡まんのう町造田 3469-2 他に所在する史跡中寺廃寺跡の保存整備基本計画を策定した報告書である。

2. 本計画の策定は、まんのう町教育委員会が委託した「史跡中寺廃寺跡整備検討委員会」及び香川県教育委員会生涯学習・文化財課の指導のもと、まんのう町教育委員会が実施した。

3. 史跡中寺廃寺跡整備検討委員会の委員、および指導機関と事務局の職員は以下のとおりである。

委員長　丹羽佑一　香川大学経済学部地域社会システム学科社会と文化考古学教授

委員　上原真人　京都大学大学院文学研究科歴史文化学系考古学教授

　　山岸常人　京都大学大学院工学研究科建築学専攻建築史講座准教授

　　平澤　毅　奈良文化財研究所文化遺産部遺跡整備研究室長

　　鈴木信男　まんのう町文化財保護審議会会長

　　栗田隆義　まんのう町長

　　北山正道　まんのう町教育委員会教育長

指導　森　格也　香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課主任文化財専門員

事務局　田岡一道　まんのう町教育委員会社会教育課長

　　雨露　弘　まんのう町教育委員会社会教育課中寺廃寺発掘調査室課長補佐

　　中村文枝　まんのう町教育委員会社会教育課中寺廃寺発掘調査室嘱託職員

4. 本書は、まんのう町教育委員会が、原案を立案し、史跡中寺廃寺跡整備検討委員会で内容を審議した後、編集したものである。

5. 本計画の策定に係る事務は、まんのう町教育委員会　社会教育課　中寺廃寺発掘調査室が行った。

目 次

■ 基本計画の策定にあたり	1
1. 策定の目的	1
2. 史跡活用の実績	2
3. 本計画書の構成について	7
■ I. 広域的な観点からの検討	9
1. 史跡中寺廃寺跡の周辺地域の文化財の概況	9
(1) 自然的環境	9
(2) 社会的環境	15
(3) 民俗的環境	16
(4) 歴史的環境	20
2. まんのう町における文化財及び公的施設等の観点からの史跡中寺廃寺跡の位置づけ	29
(1) まんのう町総合計画からの位置づけ	29
(2) 文化的面からの位置づけ	30
(3) 公的施設等の面からの位置づけ	33
(4) 文化財の面からの位置づけ	33
(5) 周辺地域からのアプローチ	34
(6) 史跡中寺廃寺跡の保護施策	40
(7) まとめ	43
■ II. 史跡指定地及びその周辺(近接地)に関する検討	44
1. 史跡中寺廃寺跡の遺跡としての構成	44
2. 史跡中寺廃寺跡の整備における理念	49
3. 整備事業の基本方針と実現のための必要な事項	50
(1) 基本方針	50
(2) 基本方針の実現のために必要な事項	50
(3) 実施のための検討課題	51
4. 史跡中寺廃寺跡の整備事業における《ゾーニング》とそれを結ぶ《基幹動線》	52
5. 整備事業において具体的に機能する施設配置の検討	54
(1) 史跡指定範囲内について	54
(2) 史跡指定範囲外について	57
■ III. 事業スケジュール等	59
1. 史跡整備スケジュール	59
2. 管理・運営体制	60

基本計画の策定にあたり

1. 策定の目的

中寺廃寺跡は、香川県仲多度郡まんのう町にある大川山（標高 1042.9m）の西尾根、標高約 700 m の辺りに広がる古代山林寺院跡である。

昭和 59 年の発掘調査で塔跡を確認した。塔心礎石下からは、讃岐国府との関係が想定されている十瓶山窯跡群特注品の壺など、10 世紀前半の遺物が出土した。これらは、中央に長胴甕を据え、その周りに壺 5 個を配置した状態で出土したことから、地鎮・鎮壇具として埋納されたと考えられる。平成 16 年から平成 19 年にかけて中寺廃寺跡調査・整備委員会を組織し、長期計画に基づいた本格的な調査を行った。その結果、中寺廃寺跡は約 1 km の範囲に点在する平坦地に、建物や石組が規則的に造られた寺院跡であることを確認した。これらの遺構からは 8 世紀後半から 12 世紀の遺物が出土し、平安時代を中心として盛行したことが分かった。中心地区では仏堂跡と塔跡が讃岐国分寺に似ている配置をとることが分かり、十瓶山窯跡群特注品の壺とともに、造営・経営に讃岐国府が関与したことが示唆されている。

古代寺院は、平地に立地するのが一般的であったが、平安時代になると比叡山延暦寺や高野山金剛峰寺などが営まれたように山林寺院が造営された。中寺廃寺跡の調査からみると、古代山林寺院の展開は地方においても広く見られるものと考えられる。このように平安仏教の地方における展開を知るうえで重要な遺跡であるとして平成 20 年 3 月 28 日に国史跡に指定された。

国史跡指定を機にまんのう町の貴重な財産として保存整備・活用を図ることへの機運が町民の中から一気に高まってきた。これを受けて町では平成 20 年度から各分野の専門家による中寺廃寺跡整備検討委員会を発足させ、自然環境と調和した整備に向けての検討を進めてきた。この検討結果に基づき、保存整備・活用を実現するため史跡中寺廃寺跡の保存整備計画を策定するものである。

本保存整備計画は、これまで行った分布調査や発掘調査成果を踏まえて策定するが、今後、史跡指定地外や未調査地における新たな成果も視野に入れるものとする。

2. 史跡活用の実績

これまでに町民は元より、町外の方々にも、貴重な史跡の存在を認識していただくべく、数々の普及・啓発活動を計画し実施してきた。

また、見学・講演の依頼にも積極的に対応し、より多くの方々に中寺廃寺跡を楽しみながら理解していただけるよう取り組んできた。琴南ふるさと資料館では調査成果を常設展示し、随時、見学者を受け入れている。

主な企画の回数は、平成 16 年に本格的な中寺廃寺跡発掘調査が始まって以来 37 回、参加延べ人数は約 500 人を数える。

主な企画の概要			
種類	主催	ところ	概要
現地見学	外部団体	現地	中寺廃寺跡についての説明、植物や生物についての紹介
現地講義	大学	現地	中寺廃寺跡についての説明
遠足	町立小・中学校	現地	中寺廃寺跡についての説明、植物や生物についての紹介
教員研修	町立小・中学校・ 県内高校教員	現地・学校・琴南ふ るさと資料館	中寺廃寺跡についての説明、植物や生物についての紹介
文化財保護協会講演	文化財保護協会	まんのう町内各地	発掘調査成果についてパワーポイントを利用した講演
琴南地区文化祭展示	町教育委員会	まんのう町琴南地区	中寺廃寺跡についてのパネルと遺物の展示
まんのう町文化祭展示	町教育委員会	まんのう町内各地	中寺廃寺跡についてのパネルと遺物の展示
まんのう町役場ロビー展	町教育委員会	まんのう町役場	年度末に発掘調査成果についてパネルと遺物の展示
琴南ふるさと資料館展示	町教育委員会	琴南ふるさと資料館	常設で中寺廃寺跡についてのパネルと遺物の展示
現地説明会	町教育委員会	現地	その年度の発掘調査成果の報告

活動の様子

平成 16 年度



現地説明会



現地説明会

平成 17 年度



琴平町子ども夏休み講座現地見学



現地説明会

平成 18 年度



現地説明会



現地説明会



琴南地区文化祭展示



大川山～中寺廃寺跡ハイキング

基本計画の策定にあたり
2. 史跡活用の実績

平成 19 年度



平成 20 年度



普及・啓発活動実績

日時順

日時	主催	対象	内容		担当者
			回数	場所	
10月31日	旧平野町教育委員会	等南中学校教職員	現地説明会	等南中学校教職員	中寺原士郎
11月26日	等南中学校	等南中学校教職員	等南中学校教職員	等南中学校教職員	中寺原士郎
平成16年度 11月20-21日	旧平野町教育委員会	等南中学校教職員	等南中学校教職員	等南ふるさと資料館	等南ふるさと資料館
満年	旧平野町教育委員会	等南中学校教職員	等南ふるさと資料館	等南ふるさと資料館	等南ふるさと資料館
4月22~4月22日	旧平野町教育委員会	文化財保護協会会員	旧平野町文化財保護協会会員	旧平野町文化財保護協会会員	中寺原士郎
7月9日	文化財保護協会会員	等平野町教育委員会	等平野町教育委員会	等平野町教育委員会	中寺原士郎
8月12日	等平野町教育委員会	等平野町教育委員会	等平野町教育委員会	等平野町教育委員会	中寺原士郎
平成17年度 10月10日	旧平野町教育委員会	旧平野町教育委員会	旧平野町教育委員会	旧平野町教育委員会	中寺原士郎
10月18日	旧平野町	旧平野町住民	旧平野町住民	旧平野町住民	中寺原士郎
11月5~6日	旧平野町教育委員会	一般	旧平野町文化祭開催式	旧平野町文化祭開催式	中寺原士郎
満年	旧平野町教育委員会	一般	等南ふるさと資料館展示	等南ふるさと資料館	等南ふるさと資料館
5月23日	文化財保護協会会員	文化財保護協会会員	等南ふるさと資料館展示	等南ふるさと資料館	中寺原士郎
5月27日	文化財保護協会会員	文化財保護協会会員	等南ふるさと資料館展示	等南ふるさと資料館	中寺原士郎
6月15日	まんのう町	等南ふるさと資料館	等南ふるさと資料館	等南ふるさと資料館	中寺原士郎
7月9日	香川大学	等南中学校生	等南中学校生	等南中学校生	中寺原士郎
10月22日	まんのう町教育委員会	一般	現地説明会	現地説明会	中寺原士郎
11月4~5日	まんのう町教育委員会	一般	まんのう町文化祭開催式	まんのう町文化祭開催式	中寺原士郎
11月18~19日	まんのう町教育委員会	等南中学校生	等南中学校生	等南中学校生	中寺原士郎
12月13日	等南中学校生	等南中学校生	等南中学校生	等南中学校生	中寺原士郎
1月10日~26日	まんのう町教育委員会	一般	まんのう町教育委員会講演会	まんのう町教育委員会講演会	中寺原士郎
3月18日	まんのう町教育委員会	一般	大川山～中寺原山林ハイキング	大川山～中寺原山林ハイキング	中寺原士郎
満年	等南中学校	等南中学校生	等南中学校生	等南中学校生	中寺原士郎
4月19日	文化財保護協会会員	文化財保護協会会員	等南中学校生	等南中学校生	中寺原士郎
6月8日	等南小学校	等南小学校教職員	等南中学校生	等南中学校生	中寺原士郎
7月30日	等南小学校	等南小学校	等南中学校生	等南中学校生	中寺原士郎
10月27日	まんのう町教育委員会	まんのう町教育委員会	等南中学校生	等南中学校生	中寺原士郎
11月3~4日	まんのう町教育委員会	まんのう町教育委員会	等南中学校生	等南中学校生	中寺原士郎
11月17~18日	まんのう町教育委員会	まんのう町教育委員会	等南中学校生	等南中学校生	中寺原士郎
11月25日	等南小学校	等南小学校	等南中学校生	等南中学校生	中寺原士郎
12月11日	香川県高等学校教科研究会	等南中学校	等南中学校	等南中学校	中寺原士郎
2月12日	等南中学校	等南中学校	等南中学校	等南中学校	中寺原士郎
満年	等南中学校	等南中学校	等南中学校	等南中学校	中寺原士郎
5月18日	文部省ブルーメ材講習会	文部省ブルーメ材講習会	等南中学校	等南中学校	中寺原士郎
5月25日	仲善シルバープラザセミナー歴史回顧会	仲善シルバープラザセミナー歴史回顧会	等南中学校	等南中学校	中寺原士郎
7月6日	香川県高等学校教科研究会	等南中学校	等南中学校	等南中学校	中寺原士郎
8月8日	香川県高等学校教科研究会	等南中学校	等南中学校	等南中学校	中寺原士郎
平成20年度 11月1~2日	まんのう町教育委員会	まんのう町教育委員会	等南中学校	等南中学校	中寺原士郎
11月22~23日	まんのう町教育委員会	まんのう町教育委員会	等南中学校	等南中学校	中寺原士郎
12月3~12日	まんのう町教育委員会	まんのう町教育委員会	等南中学校	等南中学校	中寺原士郎
12月5日	香川県	香川県	等南中学校	等南中学校	中寺原士郎
満年	まんのう町教育委員会	まんのう町教育委員会	等南中学校	等南中学校	中寺原士郎

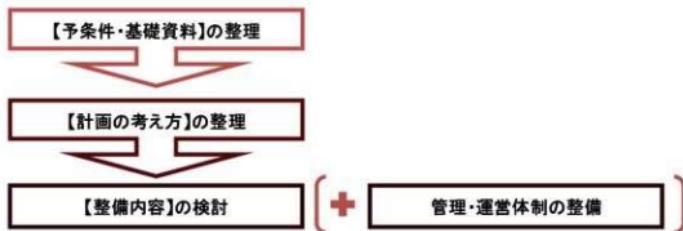
基本計画の策定にあたり

2. 文部省活用の実績

3. 本計画書の構成について

計画事業を行う際には、具体的施設の検討に入る前に、諸条件及び計画方針の確認を十分に行っておく必要がある。

整備事業の検討には、以下の3つの作業について順を追って行う。



史跡中寺廃寺跡の整備事業を検討する上で整理するべき事項とそれについての作業段階の概略は以下の通りである。

I. 広域的な観点からの検討

1. 史跡中寺廃寺跡の周辺地域の文化財の概況



2. まんのう町における文化財及び公的施設等の 観点からの史跡中寺廃寺跡の位置づけ

- これまでの議論の整理と既往事項の確認

町政における史跡中寺廃寺跡の保護施策の位置づけを簡潔に整理する。



II. 史跡指定地及びその周辺(近接地)に関する検討

1. 史跡中寺廃寺跡の遺跡としての構成

- 遺跡空間の構成、成立過程等の概要



2. 史跡中寺廃寺跡の整備における理念

- 整備事業の目的と目標の明確化

これまでの議論を踏まえ、目指すべき方向性を簡潔な形で明文化する。

事業がいついかなる段階においても、ここに表現されたことと合致しているかどうかのチェック機能を持つ。



3. 整備事業の基本方針と実現のための必要な事項

- 理念を実現するための実務方針

理念が反映された整備事業を実施するための重要な観点について検討する。



4. 史跡中寺廃寺跡の整備事業における

《ゾーニング》とそれを結ぶ《基幹動線》

- II-1 「遺跡としての構成」から整備する範囲のゾーニング



- 各ゾーンとそれらを結ぶ動線についての整備イメージ



5. 整備事業における機能配置

- 具体的に機能する施設の配置

機能として【造構の保存・活用】、【来訪者の休憩・便益】、【景観・環境の保全】に観点を置く。



III. 事業スケジュール等

1. 史跡整備スケジュール

2. 管理・運営体制

I. 広域的な観点からの検討

1. 史跡中寺廃寺跡の周辺地域の文化財の概況

(1) 自然的環境

◆ 地理

中寺廃寺跡は、まんのう町の琴南地区に所在する。町の面積は 194.33 km²、人口は約 2 万人である。香川県中部（中讃）に位置し、東は綾川町・高松市、西は三豊市、北は丸亀市・普通寺市・琴平町、南は徳島県美馬市・三好市・東みよし町に接している。琴南地区は町の南東部にあたり、南部及び南西部には、標高 1,000m を超える竜王山（1059.9m）、大川山（1042.9m）を主峰とする讃岐山脈が連なり、その麓を県下で唯一の一級河川土器川が北流している。土器川を源り、讃岐山脈の分水嶺となる三頭峠まで登り詰めると、切り立つように急峻な眼下に、東に向けて滔々と流れる吉野川を望み、対岸には剣山を擁する四国山地の山並が続く。北部は讃岐山脈から北方に続く焼尾台地と城山山地、土器川沿岸の河谷低地である造田盆地などから構成されている。中央構造線の大断層を南限とする讃岐山脈は、琴南地区の焼尾と徳島県美馬市の猿坂を通る隆起軸を中心南は急激に高く、北と東西は徐々に低く、四半球状に曲隆している。和泉層群と呼ばれる礫岩・砂岩・泥岩の互層から成る山体は、選択浸食によるケスター状の山稜を持つ峡谷に刻まれている。

中寺廃寺跡は、和泉層群からなる大川山の香川県側山間部に位置し、大川山頂より西北西約 2.5km、標高約 700m の地点で、小尾根から東へ開けた谷を囲むように分布する平坦地群の総称である。平坦地群は、最も高い部分に位置する A 地区、谷の北側に位置する B 地区、B 地区と谷を挟んで向かい合う C 地区の 3 地区に大きく分けられる。尾根上の平坦地からは香川県全域を見渡



I. 広域的な観点からの検討

1. 史跡中寺廃寺跡の周辺地域の文化財の概況

すことができる。山腹の平坦地の視界は、尾根に遮られるため遠望することはできないが、B地区南東方向の視界は開けており、古くから信仰されてきた大川山を望むことができる。東へ開けた谷には、大川山北側から中寺廃寺跡付近にかけて降った雨が流入する柞野川が流れる。柞野川は流域延長4.7km、下流のまんのう町造田宮田で土器川に合流する。

◆ 気候

琴南地区的気候は香川県で一般的にいわれる瀬戸内式気候とは異なっている。四国山地の北側にある瀬戸内海沿岸ではフェーン現象で盛夏に干害が起こりやすいが、琴南地区では竜王山、大川山から流出する水が常に豊富にあり、渇水になることは稀である。また、近年減少しつつあるが、12月初旬より3月上旬までかなりの積雪があり、山間部の集落では、一旦積もった雪は解けにくく、中寺廃寺跡においても同じ環境であるといえる。琴南地区では、盛夏の昼間に山頂部が高温となり、空気が温められて上昇するため谷から山頂へ吹く風が起り、夜間には冷却した山頂部の空気が谷に沿って吹き下ろす谷風・山風の現象がある。讃岐山脈の尾根近くに存在し、雲が停滞しやすい中寺廃寺跡の気象条件は琴南地区の中でも特に変則的で予測しにくいといえる。

風速について、まんのう町の西に隣接し、讃岐山脈の谷あいに存在することから立地環境が良く似ている三豊市財田町では、昭和54年～平成12年までの月最速平均風速が、1月～4月で毎秒1.5m、月最速平均風速が6月・7月・9月～11月で毎秒1.2m、全年平均が1.3mであった。中寺廃寺跡の尾根筋ではもう少し大きい値になると思われる。

日照時間について、同じく三豊市財田町では、昭和61年～平成12年までの月最長平均時間が8月で205.9時間、月最短平均時間が1月で96.6時間であった。

気温について、まんのう町川東堀田（標高約300m）では、月最高平均気温は8月26.5℃、月最低平均気温は1月で2.5℃、年平均気温15.6℃であった。中寺廃寺跡では、さらに標高が400～450m高いことから2～2.5℃程度低くなると考えられる。

降水量について、中寺廃寺跡に程近いまんのう町造田の柞野では、平成14～20年までの平均年間降水量は1375mmで、月別最高降水量は7月の186mm、月別最低降水量は1月の50mmであった。

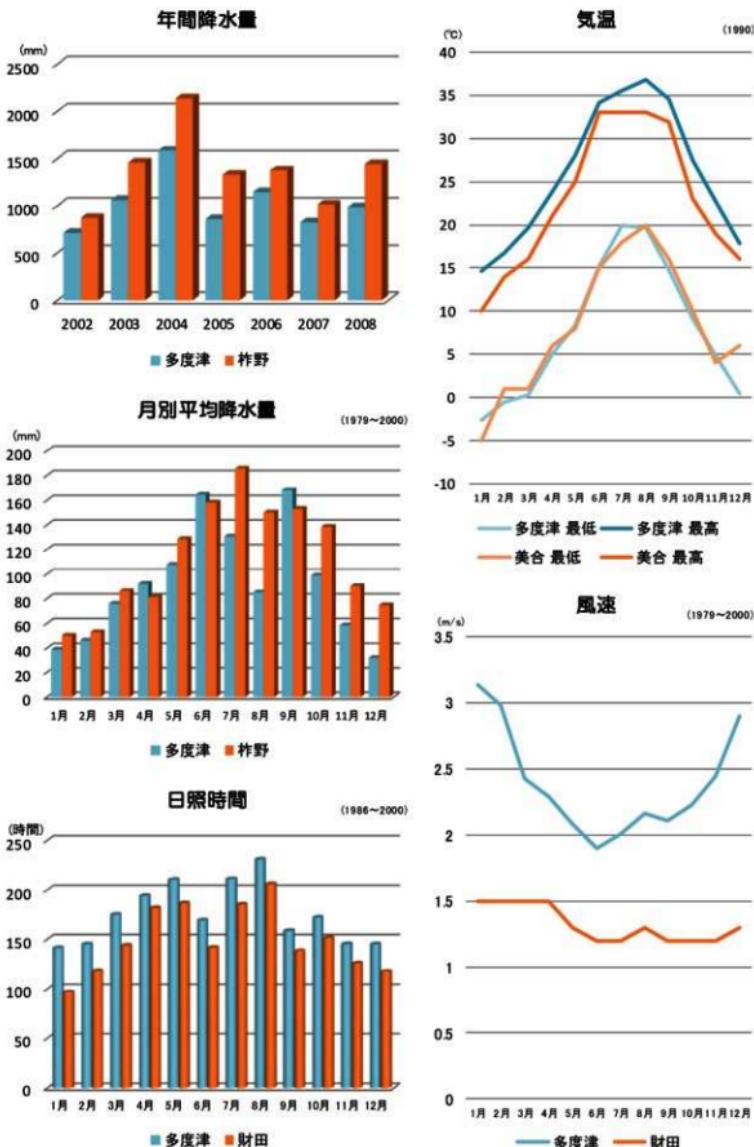
◆ 動物

琴南地区で生息が確認されている哺乳類は、家畜を除き17種である。これらの多くは山中に生



まんのう町全景（北西より）

I. 広域的な観点からの検討
1. 史跡中寺磨寺跡の周辺地域の文化財の概況



I. 広域的な観点からの検討

1. 史跡中寺廃寺跡の周辺地域の文化財の概況

息することから、中寺廃寺跡を含む大川山中にも生息していると考えられる。中でもアズマモグラ、アナグマが、香川県における準絶滅危惧種に指定されている。最近では約20年前より徳島県から流入し、定住したイノシシの獣害が問題化している。

大川山で確認された鳥類は、留鳥が33種、冬季に北方から渡来する冬鳥が27種、夏季に南方から渡来して繁殖する夏鳥が18種、通過する旅鳥が5種確認されている。以上の数は他市町に例のない多さで、大川山の自然が鳥類の生態に大きな影響を与えていていることが伺える。中でも香川県において、サシバ、クマタカが絶滅危惧種、ツツドリ、サンコウチョウ、ヤマドリ、ツミが準絶滅危惧種に指定されている。

琴南地区で生息が確認されている爬虫類は9種である。中でもニホントカゲが香川県における準絶滅危惧種に指定されている。

琴南地区で生息が確認されている両生類は13種である。中でも香川県において、カスミサンショウウオが絶滅危惧種、ニホンヒキガエル、トノサマガエルが準絶滅危惧種に指定されている。

琴南地区で生息が確認されている魚類は14種である。中でも香川県において、ヤリタナゴ、アカザ、カジカ、ドジョウ、オヤニラミが絶滅危惧種、タカハヤ、スジシマドジョウが準絶滅危惧種に指定されている。

◆ 植物

琴南地区は讃岐山脈の北斜面に位置し、高峰を有することが全体的に湿潤な土地条件を作り出しており、県下有数の植物の豊富な地域となっている。垂直分布的にみると、讃岐山脈上部では約1,000mの高度部分が帶状に伸び、高度差による温度変化に更に山頂効果が加わり、暖温帯から冷温帯への移行形を示し、低地帯とは異なる植相・植生をみせている。しかし、古くから人の



I. 広域的な観点からの検討
1. 史跡中寺廃寺跡の周辺地域の文化財の概況



I. 広域的な観点からの検討

1. 史跡中寺源寺跡の周辺地域の文化財の概況

丸山番号	丸山コード&八枠名	種別区分名	属性分		区分	細分
			大属性	小属性		
1	130401 イヌシーアカンデ群落	IV フナクス城自然群落	13 鹿島庄重群落(太平洋型)	04 イヌシーアカンデ群落	01 イヌシーアカンデ群落	
63	220700 アグリーデイシンド群落(V)	V ナカラス城代遺構生	22 鹿島庄重群落(次林)	07 アグリーデイシンド群落	00	
63(直轄)	220700 アグリーデイシンド群落(V)	V ナカラス城代遺構生	22 鹿島庄重群落(次林)	07 アグリーデイシンド群落	00	
2	271000 シラクシ群落	VI ヤブリノミクシズ城自然群生	27 鹿島庄重群落	01 シラクシ群落	00	
3	270200 アカラシ群落	VII ヤブリノミクシズ城自然群生	27 鹿島庄重群落	02 アカラシ群落	00	
4	270300 アガリシ群落	VII ヤブリノミクシズ城自然群生	27 鹿島庄重群落	03 アガリシ群落	00	
5	270400 ツツバキシ群落	VII ヤブリノミクシズ城自然群生	27 鹿島庄重群落	04 ツツバキシ群落	00	
6	270500 ワラビロギシ群落	VII ヤブリノミクシズ城自然群生	27 鹿島庄重群落	05 ワラビロギシ群落	00	
7	271100 カタモミゴジ群落集	VII ヤブリノミクシズ城自然群生	27 鹿島庄重群落	11 コジ群落	02 カメモチーゴジ群落集	
9	271800 ラブリロジス城自然群生	VII ヤブリノミクシズ城自然群生	27 鹿島庄重群落	16 ラブリロジス	00	
11	272000 クロマキ群落	VII ヤブリノミクシズ城自然群生	27 鹿島庄重群落	20 クロマキ群落		
12	280100 モミ群落(V)	VII ヤブリノミクシズ城自然群生	28 濡ぬれ海岸森林	01 モミ群落	00	
13	290100 アカマツ群落(V)	VII ヤブリノミクシズ城自然群生	29 新馬鹿・海岸新地城自然群	01 アカマツ群落		
18	300100 キヤウ群落(V)	VII ヤブリノミクシズ城自然群生	30 鹿島庄重群落	01 キヤウ群落	00	
19	300401 イヌシーアカンデ群落(V)	VII ヤブリノミクシズ城自然群生	30 鹿島庄重群落	04 イヌシーアカンデ群落	01 イヌシーアカンデ群落	
21	310100 ハシナキ群落(V)	VII ヤブリノミクシズ城自然群生	31 四沢林	01 ハシナキ群落		
22	320100 ナナホシマツ群落(V)	VII ヤブリノミクシズ城自然群生	32 四沢林	01 ナナホシマツ群落	00	
22	325101 ハツヤマ群落	VII ヤブリノミクシズ城自然群生	32 四沢林	01 ハツヤマ群落	01 ハツヤマ群落	
23	320100 アカラヤマ群落	VII ヤブリノミクシズ城自然群生	32 四沢林	01 ハツヤマ群落	02 アカラヤマ群落	
24	330600 イヌシーサツ群落	VII ヤブリノミクシズ城自然群生	33 狂野既存群落	04 イヌシーサツ群落	00	
25	340201 テラ・カワガミ群落集	VII ヤブリノミクシズ城自然群生	34 鹿島庄重群落(野原)	02 テラ・カワガミ群落	01 テラ・カワガミ群落集	
26	400100 シイ・シガニ次林	VII ヤブリノミクシズ城代遺構生	40 鹿島庄重群落(次林)	01 シイ・シガニ次林	00	
27	400600 ワカツギニシ群落	VII ヤブリノミクシズ城代遺構生	40 鹿島庄重群落(次林)	06 ワカツギニシ群落		
30	410100 コラマツ群落(V)	VII ヤブリノミクシズ城代遺構生	41 鹿島庄重群落(次林)	01 コラマツ群落	00	
31	410600 ツズニ群落	VII ヤブリノミクシズ城代遺構生	41 鹿島庄重群落(次林)	08 ツズニ群落	00	
32	411000 アカルガムマニキ群落	VII ヤブリノミクシズ城代遺構生	41 鹿島庄重群落(次林)	10 エトキ群落	01 アカルガムマニキ群落	
33	420100 アカマツ群落(V)	VII ヤブリノミクシズ城代遺構生	42 鹿島庄重群落(次林)	01 アカマツ群落	00	
34	425101 ネズ・アツマツ群落	VII ヤブリノミクシズ城代遺構生	42 鹿島庄重群落(次林)	01 ネズ・アツマツ	02 ネズ・アツマツ群落	
35	420200 リクマツ群落(V)	VII ヤブリノミクシズ城代遺構生	42 鹿島庄重群落(次林)	02 リクマツ群落		
36	430000 ダツ・サザ群落	VII ヤブリノミクシズ城代遺構生	43 ダツ・サザ群落	00		
37	432000 ダツ・サザ群落	VII ヤブリノミクシズ城代遺構生	43 ダツ・サザ群落	02 ダツ・サザ群落	00	
38	440000 伝木群落	VII ヤブリノミクシズ城代遺構生	44 伝木群落	00	00	
39	442000 ウズ群落	VII ヤブリノミクシズ城代遺構生	44 伝木群落	02 ウズ群落		
40	451000 ワルニク群落(V)	VII ヤブリノミクシズ城代遺構生	45 二尋原	01 スマルニク群		
41	450200 ウラジロコーンダ群落	VII ヤブリノミクシズ城代遺構生	45 二尋原	03 ウラジロコーンダ群落	00	
42	460000 世羅谷地松林地帯群落(V)	VII ヤブリノミクシズ城代遺構生	46 世羅谷地松林地帯群落	00		
44	470200 ヤガマヤマーダ	VII 河原・塩原・植生地・砂丘生地等	47 河原・河川・池・沼地群生	02 ヤガマヤマーダ	00	
45	470400 バンククス	VII 河原・塩原・植生地・砂丘生地等	47 河原・河川・池・沼地群生	04 バンククス	00	
48	470403 セイカツ・群落	VII 河原・塩原・植生地・砂丘生地等	47 河原・河川・池・沼地群生	04 セイカツ・群落		
48	470501 フルシカシ群落	VII 河原・塩原・植生地・砂丘生地等	47 河原・河川・池・沼地群生	05 ワリシカシ群落		
47	470502 オギ葉集	VII 河原・塩原・植生地・砂丘生地等	47 河原・河川・池・沼地群生	06 オギ葉集		
49	470600 ハルム・シケウラス	VII 河原・塩原・植生地・砂丘生地等	47 河原・河川・池・沼地群生	06 ハルム・シケウラス	00	
50	480000 伝泥原生	VII 河原・塩原・植生地・砂丘生地等	48 伝泥原生	00		
51	490000 茎丘群生	VII 河原・塩原・植生地・砂丘生地等	49 茎丘群生	00		
52	543100 スズ・ヒカリ・ワカツギ群林	IX 構樹地・耕作地・既存生	50 茎丘群生	00		
53	542000 アガリツク群林	IX 構樹地・耕作地・既存生	54 枝林地	01 スズ・ヒカリ・ワカツギ群林		
54	543000 フジツブ群林	IX 構樹地・耕作地・既存生	54 枝林地	02 フジツブ群林	00	
56	540900 外国産柏樹群林	IX 構樹地・耕作地・既存生	54 枝林地	09 外国産柏樹群林	00	
58	541000 その他樹林	IX 構樹地・耕作地・既存生	54 枝林地	10 その他樹林	00	
60	541203 オオヤマツ群林	IX 構樹地・耕作地・既存生	54 枝林地	12 その他樹林(茎丘群生)	03 オオヤマツ群林	
61	541301 ウカツギ群林	IX 構樹地・耕作地・既存生	54 枝林地	13 その他樹林(茎丘群生)	01 ウカツギ群林	
28	541303 クスノキ群落	IX 構樹地・耕作地・既存生	54 枝林地	13 その他樹林(茎丘群生)	03 クスノキ群落	
29	541303 クスノキ群落	IX 構樹地・耕作地・既存生	54 枝林地	13 その他樹林(茎丘群生)	03 クスノキ群落	
82	550000 サツヌ	IX 構樹地・耕作地・既存生	55 サツヌ	00		
9	560100 ゴル・ツフ・芝	IX 構樹地・耕作地・既存生	56 ゴル・ツフ・ゴル・ツフ・芝	00		
e	560200 既育地	IX 構樹地・耕作地・既存生	56 ゴル・ツフ・ゴル・ツフ・芝	02 既育地		
f	570100 地盤・空地樹群落	IX 構樹地・耕作地・既存生	57 地盤地	01 地盤・空地樹群落		
e	570101 既育地樹群落	IX 構樹地・耕作地・既存生	57 地盤地	01 既育・空地樹群落	01 既育地樹群落	
g	570200 基地園	IX 構樹地・耕作地・既存生	57 地盤地	02 基地園		
a	570300 基地原	IX 構樹地・耕作地・既存生	57 地盤地	03 基地原		
b	570400 水田耕作地	IX 構樹地・耕作地・既存生	57 耕作地	04 水田耕作地		
d	570500 鮎喰・大崎面草群落	IX 構樹地・耕作地・既存生	57 耕作地	05 敗坂・大崎面草群落	00	
c	580100 未開	X その他	58 未開地	01 未開地		
i	580101 継の多い住宅地	X その他	58 未開地	01 継の多い住宅地		
63(直轄)	580200 既育・積雪樹群生もった公園、基地等	X その他	58 未開地	02 既育・積雪樹群生もった公園、基地等	00	
p	580200 既育・積雪樹群生もった公園、基地等	X その他	58 未開地	02 既育・積雪樹群生もった公園、基地等	00	
1	580300 工場地帯	X その他	58 未開地	03 工場地帯	00	
m	580400 造成地	X その他	58 未開地	04 造成地	00	
n	580500 千利地	X その他	58 未開地	05 千利地	00	
s	580600 開放性場	X その他	58 未開地	06 開放性場		
r	580700 自然地	X その他	58 未開地	07 自然地		

★通の丸印番号を用いている種生名を並べておいています

手が加わり、原植生の名残を点々と留めながらも、多くが自然二次林、人為二次林となっている。

大川山付近の植生の特徴にアラカン林、ウラジロガシ林、アカガシ林の発達が挙げられる。特に山頂のイヌシデ林は、貴重な群落を形成しながら混生する他の植物を含め県下最大の自然植生を示している。このイヌシデ林の中には、香川県において絶滅危惧種に指定されているヤマシャクヤク、準絶滅危惧種に指定されているイヌブナ等、貴重な種も確認される。また大川山より西へと広がるコナラを中心とした落葉樹林は、二次林ながら非常に発達し紅葉時には目を見張るものがある。コナラ林に次いでアカマツ林も多く、アカマツ林に伴いツツジ類も広くみられる。特に、オンツツジは広く分布し、大きく成長したものもある。大川山の草地では、香川県において絶滅危惧種に指定されているキンラン、ギンラン、クロフネサイシン、準絶滅危惧種に指定されているリンドウ、センブリ等が確認される。



キンラン '08.5.21



キンラン '09.5.19

(2) 社会的環境

まんのう町は、平成 18 年 3 月 20 日に香川県仲多度郡南部の 3 町（琴南町、満濃町、仲南町）が合併して誕生した町で、平成 22 年 2 月 1 日現在の人口は 20,216 人（男性:9,713 人、女性:10,503 人）、世帯数:7,045 世帯である。1 世帯あたりの人口は 2.87 人、65 歳以上の人口は 6,127 人で山間部の集落では高齢化、過疎化が進行している。

財政規模は約 89.4 億円、うち町民税額 6.2 億円、実質公債費比率 15.8% で自主財源確保に向けた行政経営を進めている。生活面では町道舗装率 89.7%、水道普及率 96.9%、生活排水処理世帯比率 36%、自主防災組織結成率 73.6%、高速通信網利用可能世帯率 81% となっている。

主要な産業は農業であるが、昭和 50 年代からの全国的な農業収入低化の流れに伴い、多くの農家が第 2 次・第 3 次産業との兼業となっている。現在、農業生産法人数 5 法人、ブランド農産物・

I. 広域的な観点からの検討

1. 史跡中寺源寺跡の周辺地域の文化財の概況

加工品の開発数年2件であるが、衰退した農業の振興を目指し、意欲的な担い手の育成、生産基盤の整備と農村環境の保全、「まんのうブランド」特産品の開発、地産地消等に取り組んでいる。

産業別15歳以上就業者数(平成17年10月1日現在)						
第1次産業		第2次産業		第3次産業		
農業	林業	漁業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	サービス業(他に分類されないもの)
1,540	12	2	1,297	1,835	31	
合計	84	415	1,407	154	33	394
不詳	32					
合計						
					10,122	

自然環境に恵まれた町の特徴を生かし、自然の保全に取り組み、観光への活用を目指している。また、他市町の観光地との連携、住民参加型による観光の振興を図り、交流・滞在人口の増加を目指している。現在、自然・景観団体・グループ数2団体、環境ボランティア登録数300人、町ホームページアクセス数年間13万件、町ホームページ「観光・イベント情報」へのアクセス数1日96件、主要新聞地方版での掲載回数年3回、テレビでの放送回数年2回、観光インストラクターネット76人、観光ボランティア数120人、主要施設の観光客数年間133万人、自治会活動への参加率48.1%である。

教育分野では将来のまちづくりを担う心豊かな人材の育成、歴史遺産の保存と活用、町民の郷土意識の高揚等に取り組んでいる。現在、保育所・保育園・幼稚園数11園、小学校6校、中学校2校、公民館講座数45講座、生涯学習活動への参加率17.1%、生涯学習クラブ・サークル数113グループ、少年スポーツクラブの種目数5種目、スポーツ活動への参加率8.2%、体育協会の種目数13種目、スポーツ施設延べ利用者数年間54,000人、民間の地域・国際交流団体数3団体、歴史・文化活動参加率2.5%、芸術・文化団体数102団体である。

福祉分野では高齢者が住みなれた地域で安心して暮らせる地域づくり、若者が定住し安心して子育てができるまちづくり等を目指した取り組みを行っている。現在、福祉ボランティア登録団体数7団体、福祉ボランティア登録者数703人、子育て支援センター利用者数1,260人、子育てサークル数6グループ、健康づくり事業への参加率0.8%、自立高齢者率80.8%である。

(3) 民俗的環境

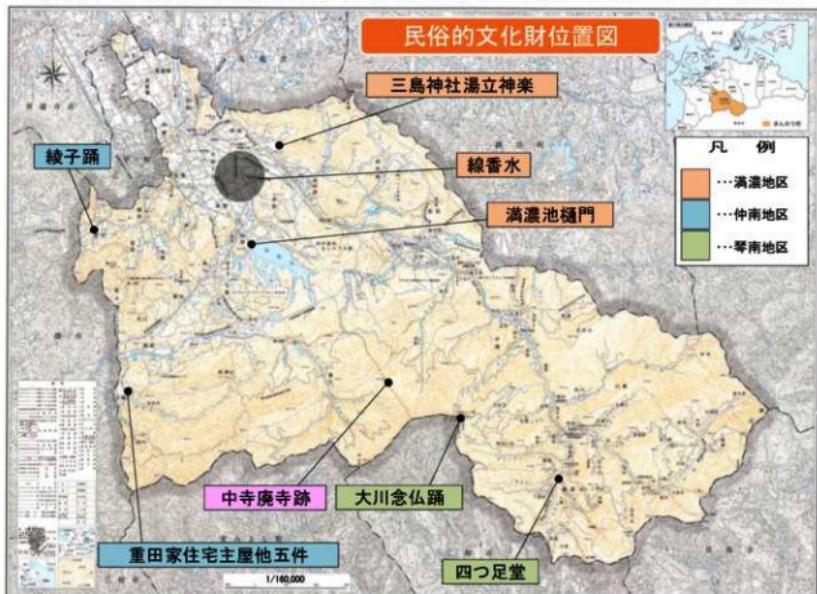
◆ 満濃地区

旧満濃町は面積の多くが平野で、古くより、讃岐山脈からの「出水」や満濃池をはじめとするため池、土器川、金倉川の水を利用した稲作の盛んな地域であった。そのため伝承されてきた風俗・習慣は農業と結びついたものが多い。特徴的なものとして吉野の線香水がある。線香水とは、

水田の引水時間を線香の燃焼時間で計り公平に水を分配する慣行で、江戸時代中期から昭和時代半ばまで続いた。旧満濃町においても、讃岐の他の地域の例に漏れず、渴水時には水利権争いが絶えなかった。そのような中、特に吉野地域は満濃池からの導水路末端に当たり水事情が悪かつたことから、戦後、土地改良事業が進むまで線香水が続けられた。ため池関係の文化財として、満濃池樋門が国の登録有形文化財となっている。また、特徴ある秋祭りとして長尾の三島神社湯立神楽がまんのう町指定無形民俗文化財となっている。三島神社湯立神楽は伊勢流神楽と湯立神事が合体し、更に火渡りの神事が加わったもので、特に御神体が湯浴みする点が珍しい。

◆ 仲南地区

旧仲南町は林野率 76.7% の山間の町で、伊予街道、阿波街道、箸蔵街道、塩入街道といった金毘羅街道が通っていたことから、周辺の国との交流が盛んであったことが分かる。住民は主に農林業を生業とし、風俗・習慣は農業や山での暮らしに結びついたものが多く伝承されている。特徴的なものに、国指定重要無形民俗文化財となっている佐文の綾子踊がある。佐文地区も古くから渴水に悩まされてきた。綾子踊はそのような中、綾子によって始められた踊が雨乞踊として伝承された。讃岐に伝承されている雨乞踊の多くが念仏踊系であるのに対し綾子踊は一種の風流踊となっている。また、農家の暮らしを伝えるものに、国の登録有形文化財となっている山脇の



I. 広域的な観点からの検討

1. 史跡中寺廃寺跡の周辺地域の文化財の概況

重田家住宅がある。海拔140mの丘陵地帯に明治10年築造された、三間流れや三間通しと呼ばれる上層の農家である。主屋は屋根の四方に本瓦葺の広い庇を付けた四方蓋造と呼ばれる造りである。四方蓋造は、香川県から徳島県にかけての農家に頗著にみられる。その他長屋門、道具蔵及び雪隠、米蔵、取合廊下、石垣付及び石垣擁壁を備え農家としては稀な屋敷構えをつくる。

◆ 琴南地区

中寺廃寺跡が所在する旧琴南町は林野率85%の山間の町で、住民は主に農林業を生業としてきた。各集落で先祖や開拓神を産土神として祀り、祖先の開拓の功業と労苦を物語る伝承を受け継いでいる。そこに居住する人々の生活パターンは大きく異なり、実に変化に富む地域社会を構成している。南部は、山や谷が深く、谷ごとに小集落が形成されている。また旧琴南町は峠の多い町であり、讃岐と阿波を結ぶ金毘羅街道が通り借耕牛も往来していた。古来より阿波との交流は盛んで、経済的交流、医療関係、学校など文化的交流、そして民俗風習、言語、生活様式など阿波の影響を受けていることが多い。これらの山間の小集落は、人家5戸内外でも、氏神があり、谷を隔てた他集落とは独立した風習伝統を持っていた。北部は、土器川の氾濫源に平野が広がり稻作が盛んであった。古代より集落が形成され、金毘羅街道の要衝として栄えたことから旧琴南町において文化の中心となった地域である。金毘羅街道沿いには寄進による道標、灯籠、鳥居、茶堂などが建っていた。現在も残っているものの一つにまんのう町指定有形文化財となっている勝浦の四つ足堂がある。四つ足堂は、明神から真鈴峠を越え貞光に出る道の途中にある茶堂であり、金毘羅参りの旅人が休んだといわれている。入母屋造茅葺で粉ひき地蔵を祀った素朴なお堂である。その他、特徴的なものに、香川県指定無形民俗文化財となっている大川念仏踊がある。大川山麓の村々では古くから渴水に悩まされてきた。諸国大干ばつの時、大川神社の氏子によつて雨乞踊が奉納されたことが始まりである。他地域では大人が担当する中踊を子どもが担い大人が補佐している。また県内の念仏踊の大半が滝宮天満宮に奉納するが、大川念仏踊は主に大川神社へ奉納する。

◆ 峠の道

まんのう町には、古くから讃岐・阿波間を結ぶ峠越えの道が数多く通っている。こういった峠越えの道は先史時代よりあったと考えられ、これらの道が古代には官道として、中世には修驗道者の道や軍用道として、近世には金毘羅街道として整えられ、讃岐山脈を挟む南北地域間の交流に利用してきた。中でも三頭峠は、金毘羅五街道の内の一本、阿波街道であり近代まで通行量の多い道であった。まんのう町では現在、猪ノ鼻トンネル・三頭トンネルが香川・徳島間の主要な往還となっている。

現在、中寺廃寺跡は大川山麓の集落の中通、江畑、柞野から入る。中通からは大川神社参拝道を通る。大川山頂や途中の讃岐山脈尾根筋では、北には日本最大の灌漑用ため池である満濃池をはじめとするため池群が潤す讃岐平野を、南には四国山地の雄大な広がりを一望できる。

江畑、柞野からの道は、古くから大川神社参拝道、金毘羅参拝道として、また地元住民の生活道として炭焼き、林業に利用されてきた。中寺廃寺跡はその途中に位置している。これらの道は麓では前述の街道へと至り、奥では峠越の道へと至る。



(4) 歴史的環境

① 概要

中寺廃寺跡付近では、中寺廃寺跡の下層より旧石器、縄文土器が少量出土している。中寺廃寺跡以外の遺跡は主に、中寺廃寺跡から麓の平野部を挟んで北東の丘陵部分、中寺廃寺跡から北西へ2kmの満濃池周辺、中寺廃寺跡周辺に連なる山の谷間に広がる僅かな平野部分で確認されている。

◆ 旧石器時代

旧石器時代の遺跡としては、中寺廃寺跡の下層よりサヌカイト製石器が出土している。これらの石器は蛍光X線分析により香川県五色台山系の白峰山・国分台・蓮光寺山産であることが判明している。また、讃岐山脈を越えた三好郡東みよし町加茂山からサヌカイト製ナイフ形石器が採集されていることから、サヌカイトを介した徳島側と香川側の往来があったと推測される。

I. 広域的な観点からの検討

1. 史跡中寺源寺跡の周辺地域の文化財の概況

まんのう町の峠一覧		
峠名	所在地	概要
賀田峠	賀田 岡下	三塙山を通り阿波街道と塩入街道を結ぶ。周辺には古墳が多数存在する。
堀切峠	岸上 堀切	塩入街道が通り、通行量は多かった。麓には金毘羅石灯籠が2基残っている。
馬背峠	生間 馬背	生間から塩入街道までの往来に利用された。
櫻ノ木峠	追上 櫻木	阿波街道が通る。阿波街道と呼ばれる以前から阿波・土佐と讃岐を結ぶ主要な道で、峠多くの人馬が往来した。
東山越	塩入 八丁	塩入街道が通り、人馬が盛んに往来した。街道は途中から東山越と樅ノ休場に分岐するが明治の改修工事に際して東山越が県道とされ栄えた。
樅ノ休場	塩入 中川原	塩入街道が通り、人馬が盛んに往来した。街道は途中から東山越と樅ノ休場に分岐するが明治の改修工事に際して東山越が県道とされ、次第に寂れた。
真鉢峠	勝浦 真鉢	標高 650m、真鉢集落の間を通り、徳島県三好市三野町太刀野山大屋敷に出る切り抜きの峠。昔は信耕牛が盛んに往来した。
瀧ノ奥峠	勝浦 峠	標高 650mで、昔は信耕牛が盛んに往来した。峠を越えると阿波の瀧寺に下りる。養蚕が盛んだった時代には農家の人々もこの寺に参詣を行った。
二双越(立石峠)	勝浦 奈良ノ木	二双神社の前を通るためか、讃岐側ではこの名前がついた。現在は舗装され、車で通ることができる。
三頭峠	勝浦 三角	主要な阿波街道が通り標高 795m、昔は金毘羅参り、四国巡礼、花嫁行列、荷馬、信耕牛など盛んに往来があった。
寒風越	勝浦 横畠	横畠から細く急な坂を 1 時間登る。昔は横畠集落の大切な生活道だった。
焼尾峠	中通 焼尾	地蔵が多い。また、妖怪や源平合戦等の民話が多く残る。現在も琴南から東讃へ向かう主要な道である。
首切峠	造田 茶臼池谷	高松街道に至る。戦国時代、造田城が長宗我部軍に攻められ、家来がここで首を切られたと伝えられている。現在も琴南地区と高松方面を結ぶ主要な道である。
種子峠	岸所東 東谷	古くよりこの辺り一帯の住民が綾川・高松方面へ抜けるために通っている。

まんのう町を通る金毘羅街道

街道名	ルート	概要
阿波街道	徳島県三好市池田町～猪ノ鼻峠～香川県三豊市財田町～樅ノ木峠～琴平町阿波町	古くから多くの人馬が往来し、阿波・土佐と讃岐を結ぶ街道であった。現在、国道 32 号となっている。
阿波街道	徳島県美馬郡つるぎ町貞光～三頭峠～香川県まんのう町川東明神～造田～吉野～琴平町阿波町	金毘羅街道の中でも塩入街道と併せ主要な道である。途中の明神は信耕牛の取引の場として栄え、小さいが宿場町としての様相を呈していた。
阿波街道	貞光～真鉢峠～まんのう町勝浦～明神～造田～吉野～琴平町阿波町	三頭越と併せ往来が多かった。真鉢には四つ足堂と呼ばれる茅堂があり金毘羅参りの人々が足を休めた。四つ足堂は現在も地域住民に守られている。
箸藏街道	三好市西祖谷山村中尾～池田町西山船原～箸藏寺～まんのう町山脇～財田町黒川～阿波街道と合流	金毘羅宮へ参拝した人が箸藏寺へも参拝したことから栄えた街道である。山脇地区が特に駿しく難所であった。
塩入街道	樅ノ休場・東山越～まんのう町塩入～堀切峠～岸上～五條～琴平町阿波町	金毘羅参りの他、讃岐から塩を運搬する道でもあり栄えた。近代以降は信耕牛の往来も盛んになった。街道筋には石灯籠が多く残る。

◆ 繩文時代

縄文時代の遺跡としては、備中地遺跡より早期の押型土器が出土している。また、中寺廃寺跡の下層より前期の土器が出土していることから、この頃にはすでに中寺廃寺跡付近の平坦地が利用されていた可能性がある。

◆ 弥生時代

弥生時代の遺跡としては、中寺廃寺跡が存在する大川山の麓の平野部分で集落跡が確認されている。また満濃池南辺の大川山寄りの地域でも多くの散布地が確認されていることから、人々の生活が山中での狩猟採集から平地での水稻耕作へと移っていったと考えられる。

主な遺跡として、備中地遺跡より弥生時代後期の遺物が出土している他、河岸段丘の町代遺跡では弥生時代中期後半の集落跡、また、羽間遺跡では弥生時代後期中葉の大型掘立柱建物跡等が検出され、集落跡が確認されている。羽間遺跡と同一の丘陵に所在するまんのう町東佐岡では平型銅劍2口が出土している。この他にも、庵山遺跡では大型蛤刃石斧を採集、吉野下にある古石遺跡では竪穴式住居跡を、買田にある岡下遺跡では掘立柱建物跡、土坑、溝を確認している。満濃池周囲には葦谷遺跡、長谷遺跡、長谷西遺跡、神野岡遺跡、神野岡北遺跡、神野三田遺跡、神野三田南遺跡があり、弥生～中世までの遺物を採集している。

◆ 古墳時代

古墳時代の遺跡としては、古墳時代中期～後期の古墳が多数確認されている。古墳が多く分布する地域は、長尾丘陵の南西側(河岸段丘上)、中津山周辺、西山山西側、公文山南側があり、いずれも丘陵の南西斜面、土器川右岸を中心に分布する。これらの地域は北西にかけての展望が良く、当時栄えていたと考えられる現在の普通寺付近の平野まで見渡すことができる。また土器川右岸の古墳群の中で最も上流に位置する吉田神社前1・2号墳では、徳島県吉野川市忌部山古墳群と同じ「忌部山型石室」と呼ばれる石室形態が見られることから、これらの土器川右岸の古墳群を築造した集団と忌部山古墳群を築造した忌部氏との讃岐山脈を越えた繋がりが推測される。箱式石棺を埋葬主体とする古墳としては、富熊神社南古墳、天神七ツ塚7号墳、神野1号箱式石棺が確認されている。横穴式石室を持つ古墳としては草塚古墳、安造田東1・2・3号墳、安造田神社裏古墳、安造田神社前古墳、安造田東崎古墳、佐岡1・2号墳、断頭墓地1・2号墳、光明寺池上古墳、椿谷古墳、南泉寺1号墳、北山楠木神社塚古墳、北山墓地1・2号墳、櫻林清源寺1・2号墳、櫻林山の神古墳、町代1・2号墳、神野古墳が確認されている。この他にも、西山西部1～3号墳、出雲山1～4号墳、天神塚古墳、森本塚古墳、公文山1～6号墳、三塚山1～5号墳、買田峠古墳、葦谷古墳、岡の塚穴古墳、小山古墳、楓賀塚、長谷古墳が確認されている。

◆ 古代

この頃、中寺廃寺が隆盛した。中寺廃寺跡では塔跡、佛堂跡、僧房跡など多くの建物跡が確認され、讃岐・阿波国境における山林仏教の拠点として機能していたと考えられる。その他、古代

I. 広域的な観点からの検討

1. 史跡中寺廃寺跡の周辺地域の文化財の概況

に建立された寺院遺跡としては、弘安寺跡、金剛院経塚、尾背廃寺跡、佐岡寺跡、阿弥陀堂跡、前正善寺跡、円徳寺跡、靈仙寺跡、神野寺等が挙げられる。弘安寺跡からは白鳳～奈良期の十六葉素弁蓮華軒丸瓦が出土している。金剛院経塚からは陶製の外容器、鋳鉄製の經筒、銅鏡一面などの経塚遺物が出土している。古代に建立された神社としては、大川神社、中熊神社、天川神社、梶洲神社、神野（万農池）神社等が挙げられる。天川神社、梶洲神社、神野（万農池）神社は「国史現在社」である。

その他の古代の遺跡としては、空海が修築したとされる満濃池がある。また満濃池の北側、蛇谷の東付近では神野1号窯跡が確認されている。空海については、19歳の時、四国の嶽山を跋渉して苦行を続けたといわれている。

古代における中寺廃寺跡周辺地域の特徴として、平家の落人伝説がある。讃岐山脈の峠に近い集落では源氏、平家の山越、落人の開拓といった伝承が数多く残ることから、それらの伝承の真否の程はともかくとしても集落の立地の険しさを物語る。

◆ 中世

中世の遺跡としては多数の山城跡が確認されている。戦国期讃岐屈指の規模を誇る西長尾城跡（長尾城跡、国吉城跡）を始め、種子城跡、常包城跡、城丸城跡（惣の丸砦跡、照井城跡）、大堀城跡、新木城跡、山脇城跡、造田城跡、金丸城跡、大谷川城跡、備中城跡、中通山城跡、尾ノ瀬山城跡、丸山城跡、仲南藤目城跡等がある。これらの城の多くが讃岐山脈を越えて攻めてきた長宗我部軍によって一掃された。中寺廃寺跡付近の道も含む峠の道や峠の集落では戦闘もあり、軍用道として頻繁な往来があったと考えられる。

集落遺跡としては、木下遺跡において建物跡、溝跡を確認している。

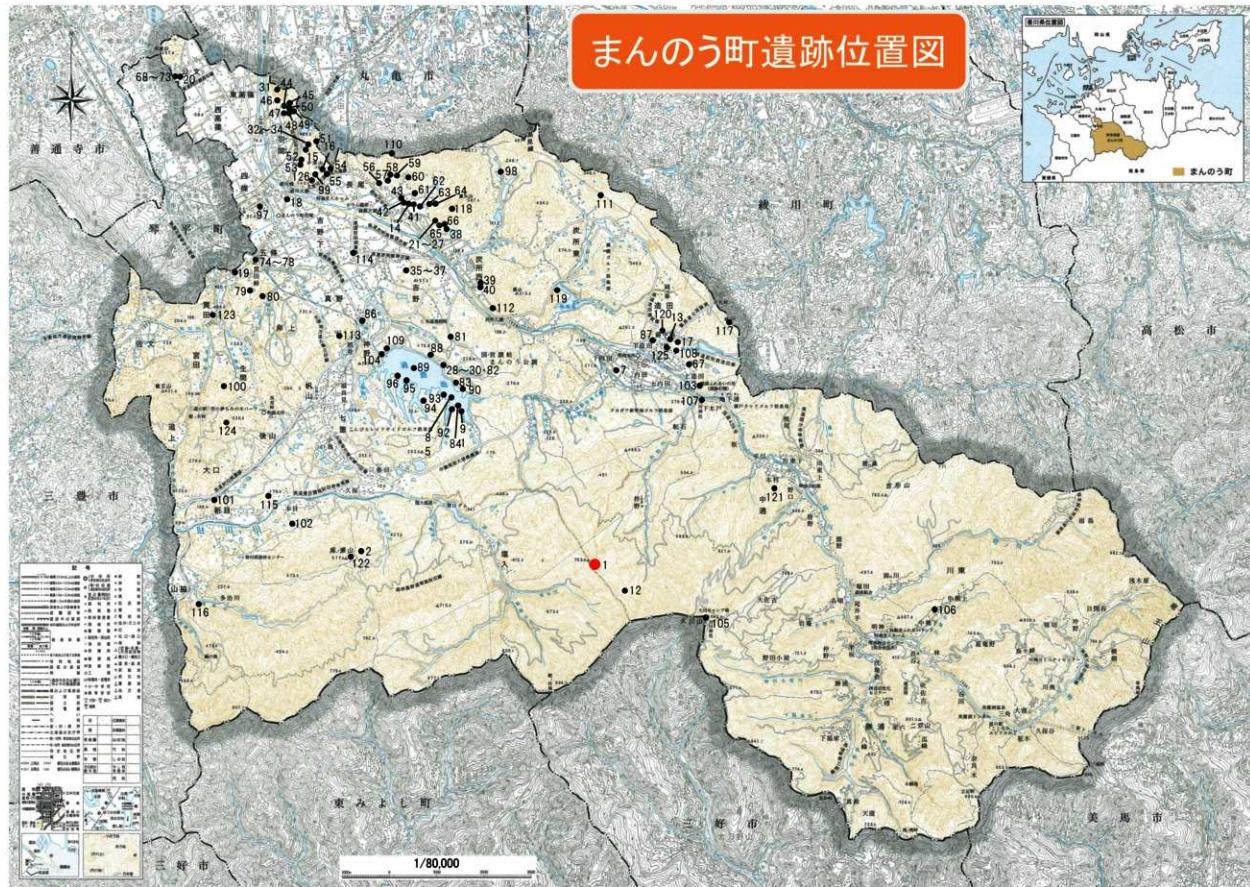
◆ 近世

近世に入ると中寺廃寺跡付近を含む国境の山々は高松藩による管理体制が整った。今まで樹木の切り出しの記録、役人の見回りの記録、藩主の巡視の記録等が残っている。

寛文8(1668)年には高松城下の整備のための建築資材として、塩入山で伐採を行い、土器川に流して下流へと運んだ記録がある。この塩入山の伐採範囲には中寺廃寺跡付近も含まれていたと考えられる。

御林見回り、御境目見回りの役人は、年2回、塩入村から讃岐山脈の尾根沿いを笹ノ多尾、大川神社を経由して東へと進んだ。見回りの前には村々から人足が出て道の点検等、役人を迎える準備があったと考えられる。

天保6(1835)年の藩主松平頼惣の巡視の記録に、御境目見の道筋にあたる中寺廃寺が旧跡として紹介されたことが記されている。このときの巡視では、雪が多い年であったため綿密な準備が進められ、大川神社から笹ノ多尾まで新道が敷かれ、古道も修繕された。国境の道はこういった役人見回り、藩主の巡視等の機会に整備されることにより後世まで利用できる規模もしくは基礎



主人の御用達第一表									
	古代	中世	近世	明治	大正	昭和	平成	令和	備考
1 中寺磨寺跡	寺院	古代	—	49 出雲山寺跡	古墳	古墳	不明	89 渥美山寺跡	敷地地 敷地跡 敷地跡 敷地地
2 鹿名寺	寺院	中世	—	50 出雲山寺跡	古墳	古墳	不明	90 美谷山寺跡	外生~奈良 外生~奈良 外生~奈良 外生~奈良
7 鹿名寺	寺院	中世~近世	—	51 安通寺跡古墳	古墳	古墳	不明	91 美谷山寺跡	無害跡 無害跡 無害跡 無害跡
12 院の住道跡	枕木地	中世~近世	—	52 安通寺跡古墳	古墳	古墳	不明	92 長谷西造跡	生~奈良 生~奈良 生~奈良 生~奈良
13 舊中地造跡	枕木地	—	—	53 安通寺跡古墳	古墳	古墳	不明	93 神野間造跡	神野間造跡 神野間造跡 神野間造跡 神野間造跡
14 町代造跡	枕木地	生~中世	—	54 佐面1号墳	古墳	古墳	不明	94 神野金合造跡	氣湯跡 氣湯跡 氣湯跡 氣湯跡
15 町代造跡	枕木地	生~中世	—	55 佐面2号墳	古墳	古墳	不明	95 神野三田南造跡	平安 平安 平安 平安
16 佐面造跡(平形側面出土物)	枕木地	生~中世	—	56 下王寺古墳	古墳	古墳	不明	96 神野下田造跡	生~奈良 生~奈良 生~奈良 生~奈良
17 鶴山遺跡	枕木地	生~中世	—	57 新潟郡1号墳	古墳	古墳	不明	97 弘安寺跡	古代 古代 古代 古代
18 野野石造跡	集落跡	生~中世	—	58 新潟郡2号墳	古墳	古墳	不明	98 弘安寺跡	経塚 経塚 経塚 経塚
19 賀田岡下跡	集落跡	古墳	—	59 光明院上古墳	古墳	古墳	不明	99 佐賀山跡	寺院 寺院 寺院 寺院
20 賀田寺南古墳	古墳	古墳	—	60 天保山古墳	古墳	古墳	不明	100 丹波院	寺院 寺院 寺院 寺院
21 天保七ツ原1号墳	古墳	古墳	—	61 薩摩山古墳	古墳	古墳	不明	101 静香寺跡	寺院 寺院 寺院 寺院
22 天保七ツ原2号墳	古墳	古墳	—	62 之山精社古墳	古墳	古墳	不明	102 丹波院	寺院 寺院 寺院 寺院
23 天保七ツ原3号墳	古墳	古墳	—	63 丹波院	古墳	古墳	不明	103 神寺跡	寺院 寺院 寺院 寺院
24 天保七ツ原4号墳	古墳	古墳	—	64 宮山山古墳	古墳	古墳	不明	104 神野寺	寺院 寺院 寺院 寺院
25 天保七ツ原5号墳	古墳	古墳	—	65 鮎林渓寺跡	古墳	古墳	不明	105 大久保社	古代~現代 古代~現代 古代~現代 古代~現代
26 天保七ツ原6号墳	古墳	古墳	—	66 新鶴浜造跡	古墳	古墳	不明	106 山ノ神社	寺院 寺院 寺院 寺院
27 天保七ツ原7号墳	古墳	古墳	—	67 鮎本寺古墳	古墳	古墳	不明	107 大久保社	寺社 寺社 寺社 寺社
28 沢野1号古墳	古墳	古墳	—	68 公文山寺跡	古墳	古墳	—	108 別所神社	古代~現代 古代~現代 古代~現代 古代~現代
29 沢野2号古墳	古墳	古墳	—	69 公文山寺跡	古墳	古墳	—	109 神野神社(万葉集地跡)	神社 神社 神社 神社
30 沢野3号古墳	古墳	古墳	—	70 公文山寺跡	古墳	古墳	—	110 西長尾山(古宮跡)	山城 山城 山城 山城
31 美原古墳	古墳	古墳	—	71 公文山寺跡	古墳	古墳	—	111 横子山跡	城壁 城壁 城壁 城壁
32 安通高1号墳	古墳	古墳	—	72 公文山寺跡	古墳	古墳	—	112 常包寺跡	中世 中世 中世 中世
33 安通寺2号墳	古墳	古墳	—	73 公文山寺跡	古墳	古墳	—	113 長丸城跡(丸山城跡)	城壁 城壁 城壁 城壁
34 安通寺3号墳	古墳	古墳	—	74 三井山寺跡	古墳	古墳	不明	114 大久保跡	山城 山城 山城 山城
35 南東寺1号墳(山古第)	古墳	古墳	—	75 三井山寺跡	古墳	古墳	不明	115 斎自寺跡	山城 山城 山城 山城
36 南東寺2号墳(山古第)	古墳	古墳	不明	76 三井山寺跡	古墳	古墳	不明	116 山御前跡	山城 山城 山城 山城
37 南東寺3号墳(山古第)	古墳	古墳	不明	77 三井山寺跡	古墳	古墳	不明	117 金久路	山城 山城 山城 山城
38 爰山山の寺跡	古墳	古墳	—	78 三井山寺跡	古墳	古墳	不明	118 大谷川城跡	山城 山城 山城 山城
39 西田寺跡1号墳	古墳	古墳	—	79 西田寺古墳	古墳	古墳	不明	119 伊豆山城跡	城壁 城壁 城壁 城壁
40 西田寺跡2号墳	古墳	古墳	不明	80 梅谷古墳	古墳	古墳	不明	120 中澤山城跡	山城 山城 山城 山城
41 新代1号墳	古墳	古墳	—	81 魔羅院王古墳	古墳	古墳	—	121 中澤山城跡	山城 山城 山城 山城
42 新代2号墳	古墳	古墳	—	82 石野古墳	古墳	古墳	不明	122 尾瀬山城跡	山城 山城 山城 山城
43 新代3号墳	古墳	古墳	—	83 鹿谷古墳	古墳	古墳	不明	123 丸山城跡	山城 山城 山城 山城
44 西山山前1号墳	古墳	古墳	—	84 美谷古墳	古墳	古墳	不明	124 伸岡山城跡	山城 山城 山城 山城
45 西山西部1号墳	古墳	古墳	—	85 罠の穴古墳	古墳	古墳	—	125 木下城跡	山城 山城 山城 山城
46 西山西部2号墳	古墳	古墳	—	86 小山山古墳(前)	古墳	古墳	不明	126 是永大保守一族の墓	墓 墓 墓 墓
47 出雲山寺跡	古墳	古墳	不明	87 鶴屋跡	古墳	古墳	—	127 神野山城跡(奈良~奈良)	寺院 寺院 寺院 寺院
48 出雲山寺跡	古墳	古墳	不明	88 神野山城跡	古墳	古墳	—	128 古墳天井跡	生~奈良 生~奈良 生~奈良 生~奈良

I. 広域的な観点からの検討

1. 史跡中寺廃寺跡の周辺地域の文化財の概況

になつていつたと考えられる。そこから中寺廃寺跡付近にも往来があり、中寺廃寺の存在が伝承されたと推測される。

◆ 近代

山間部では明治に入ると山林の所有が明確になり自由に伐採ができるようになったことから木炭の生産が盛んになった。中寺廃寺跡付近でも広葉樹林が広がり炭焼きが盛んに行われていた。昭和20年頃には、第二次世界大戦による国内の燃料資源不足からバスも木炭で走るといった状況となり、国策として木炭を増産したことで最盛期を迎えた。しかし、昭和30年頃から化石燃料が広く普及するようになり、それとともに木炭は斜陽の一途を辿り、現在では生産自体行われていない。

中寺廃寺跡付近には当時の炭焼き窯跡が多数点在している。特に中寺廃寺跡登山道の柞野道沿いに残る炭窯は保存状態が良く、当時の炭焼き文化を偲ぶことができる貴重な資料となっている。

② 中寺廃寺と古代山林寺院との関係

◆ 県内の古代山林寺院

香川県内に所在する古代山林寺院跡としては、まんのう町の尾背廃寺跡、高松市の千間堂跡、なかやまはいじあと、さかいいでしょ、やまいじあと、坂出市の中山廃寺跡が挙げられる。

尾背廃寺跡は標高 470～520mに立地しており、礎石建物跡、列石、石垣、集石遺構を確認している。白磁四耳壺、八葉複弁蓮華文軒丸瓦、巴文軒丸瓦、均整唐草文軒平瓦、平瓦、丸瓦、須恵器、土師器、青磁碗、鉄釘が出土している。

千間堂跡は標高 285mに立地しており、礎石建物跡、掘立柱建物跡、集石遺構、基壇を確認している。須恵器多口瓶、灰釉陶器、綠釉陶器、平瓦が出土している。

中山廃寺は標高 355mに立地しており、礎石建物跡を確認している。七葉單弁蓮華文軒丸瓦、丸瓦、平瓦、鉄釘が出土している。

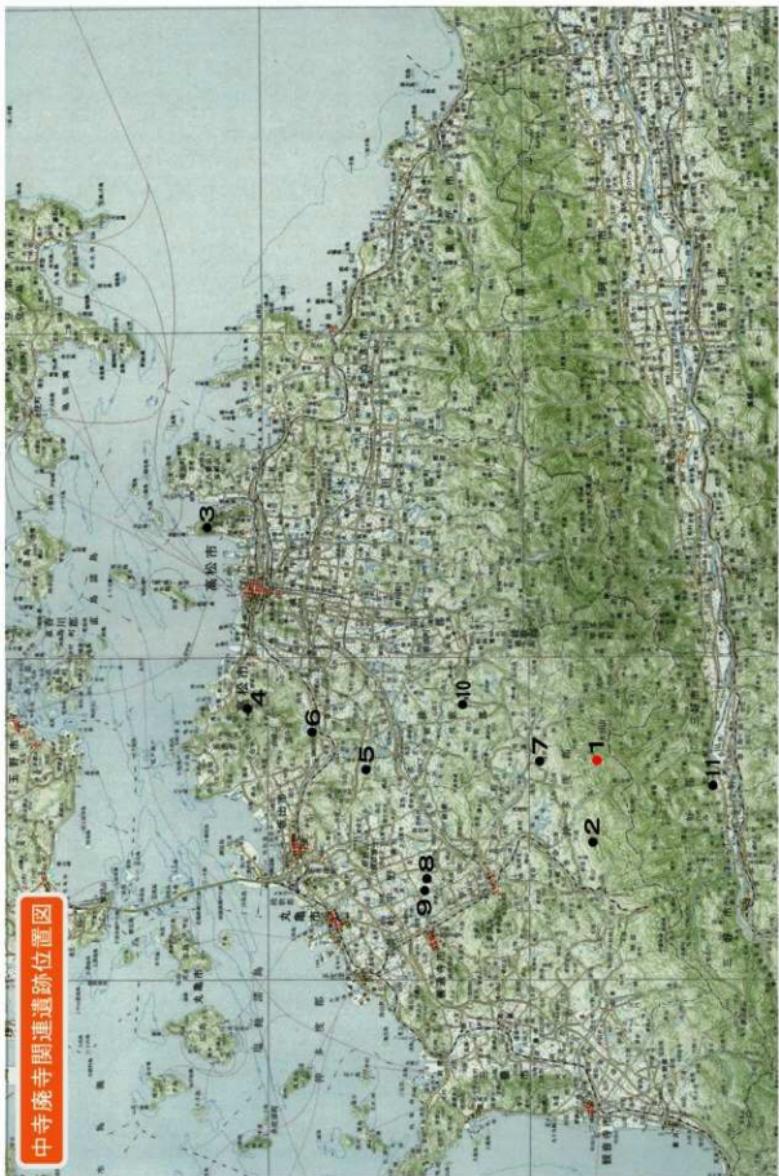
横山廃寺跡は標高 242mに立地しており、石室、基壇、井戸跡を確認している。巴文軒丸瓦、巴文軒平瓦、均整唐草文軒丸瓦、連珠文軒平瓦、丸瓦、平瓦、綠釉陶器、須恵器、土師器が出土している。

◆ 中寺廃寺を起源とする寺院

まんのう町の称名寺（浄土真宗本願寺派）、丸亀市の淨樂寺（浄土真宗本願寺派）、願誓寺（浄土真宗本願寺派）、綾川町の永覚寺（真宗大谷派）、徳島県三好郡東みよし町の教法寺（浄土真宗本願寺派）は、中寺廃寺を起源とする寺院であるとの伝承が残っている。

称名寺は、伝承によると、大川山の中寺の一坊としてまんのう町造田の柞野にある松地谷（＝末寺谷）にあったが、まんのう町造田の西性寺に移り、その後、同じまんのう町造田の現在地に移ったという。淨樂寺は、現在、まんのう町塩入に門徒が三十数軒あり、地元の伝承によると、

I. 広域的な観点からの検討
1. 史跡中寺廃寺跡の周辺地域の文化財の概況



I. 広域的な観点からの検討

1. 史跡中寺廃寺跡の周辺地域の文化財の概況

中寺廃寺跡関連遺跡一覧					
番号	遺跡名	種別	時代	所在地	備考
1	中寺廃寺跡	寺院	古代	香川県仲多度郡まんのう町塩田	
2	尾背廃寺跡	寺院	中世	香川県仲多度郡まんのう町七面	
3	平筒寺跡	寺院	古代	香川県高松市屋島西町	
4	中山廃寺	寺院	古代	香川県高松市中山町	
5	横山廃寺	寺院	古代～中世	香川県坂出市府中町	
6	国分寺	寺院	古代～現代	香川県高松市国分寺町国分	
7	称名寺	寺院	中世～現代	香川県仲多度郡まんのう町塩田	まんのう町塩田作野松地谷→現在地
8	淨業寺	寺院	中世～現代	香川県丸亀市垂水町	中寺→まんのう町塩入→現在地
9	願誓寺	寺院	中世～現代	香川県丸亀市垂水町	中寺→まんのう町江畠→現在地
10	永覺寺	寺院	中世～現代	香川県綾歌郡綾川町東分	まんのう町中通皆野→現在地
11	教法寺	寺院	中世～現代	徳島県三好市三野町太刀野山大平	中寺→徳島県三好市三野町太刀野山大平→現在地

元々は中寺にあったという。

願誓寺は、現在、まんのう町炭所西の江畠に門徒が十数軒あり、地元の伝承によると、元々は中寺にあったという。

永覺寺は「永覺寺縁起」に、大和の法藏寺にいた空円という大僧が衆生利益のため諸国を遊歴した折、ここに留まって讃岐国鵜足郡大川宮に務めていた、と記されている。その後、永覺寺は綾川町東分に移り、跡地には岡ん堂と呼ばれる庵が建てられたが現在は廃庵となっている。

教法寺は中寺にあったが、徳島県三好市三野町太刀野山大平の庵に移り、その後、徳島県三好郡東みよし町足代に移ったといわれている。